

様式第1号(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度 美幌町社会教育委員会議 (第4回)
開 催 日 時	令和4年11月24日(木) 18時30分 開会 19時50分 閉会
開 催 場 所	美幌町民会館 3階 中ホールA・B
出 席 者 氏 名	委 員： 牛島委員長、空師副委員長、池田、酒井、伊藤、茂手木、 宮崎、寺田、國澤、下山 各委員(10名出席) 教育委員会： 矢萩教育長、遠藤教育部長、立花社会教育課長、浅野ス ポーツ振興課長、鬼丸博物館課長、竹花図書館長(6名出席)
欠 席 者 氏 名	澤田、下山、西谷内 各委員(3名)
事務局職員職氏名	野村社会教育グループ主査、山本文化振興グループ主査 (2名出席)
議 題	報告事項 (1) 各種研修出席報告 ①令和4年度 オホーツク管内社会教育委員連絡協議会 北見・斜網地区社会教育委員等研修会 ②令和4年度 北海道社会教育研究大会 兼 北海道社会教育 委員連合北海道ブロック大会(第61回留萌大会、オンライン開催) ③令和4年度 オホーツク管内社会教育振興セミナー 協議事項 (1) 令和5年度 社会教育関係各課事業計画 () (2) 令和4年度 美幌町社会教育委員の研究調査 その他
会議の公開又は非 公開の別	公 開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	なし
会 議 資 料 の 名 称	令和4年度 美幌町社会教育委員会議 (第4回) (1) 資料 各種研修開催・出席報告、令和5年度 社会教育関係 各課事業計画(案) (2) 資料1 各課課長・館長連絡事項 (3) その他(各種事業募集チラシ等)
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した全部記録
	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

令和4年度 美幌町社会教育委員会議
(第4回)議事録

1 開 会

(牛島委員長)

皆様こんばんは。

定刻を過ぎましたので、これより令和4年度第4回美幌町社会教育委員会議を開催します。本日は、大変お忙しいところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、事務局より報告事項があります。

(立花社会教育課長)

報告事項を申し上げます。

本日の会議ですが澤田委員、辻委員より欠席のご連絡をいただいております。

また、西谷内委員、國澤委員については少々遅れる旨、ご連絡をいただいております。

本日の会議は、美幌町自治基本条例第11条の規定に基づき、すべての議案を公開で実施いたします。

次に本日の会議の議案と資料の確認をさせていただきます。さきに送付しました議案については野村主査からも確認があったと思いますので大丈夫かと思っております。その他、本日の配布資料としまして、机の上に置かせていただいている、びほろっ子プレイガイド12月号、教育委員会12月行事予定表、吹奏楽育成会広報紙「ハーモニー」と吹奏楽フェスティバルのチラシがあるかと思っております。それから、図書館だより12月号、右肩上に調査研究資料とグレーで色付けをしてありますけれども、前回第3回の会議の時に多様性につきましてグループワークで協議された内容を簡単にまとめさせていただきましたもの。以上が配布資料となりますのでなければお申し出いただければと思います。

以上で報告を終わります。

2 開 会 あ い さ つ

(牛島委員長)

それでは、開会にあたりましてご挨拶を申し上げます。

改めましてこんばんは。

コロナの方は依然収まらず、大変な状況になっています。そのような中、北見斜網地区研修会にご参加いただいた委員の皆様、そして各事業視察、今精力的にお世話になっておりますけれども、それぞれの委員の活動に敬意を表します。

いよいよ寒くなってきました。来週雪が降りそうだという話を天気予報でしていましたがコロナも収まらないですが、健康に気を付けながら活動いただければなと思っております。今年も12月、もうあとひと月で終わろうとしているところでございます。この後、会議もよろしく願いいたします。

次に矢萩教育長からご挨拶をいただきます。

(矢萩教育長)

改めまして皆様お晩でございます。師走を目前に控え、何かとお忙しい時期に加えて、夜分お疲れのところご出席いただきありがとうございます。

本年度4回目の会議でございますが、前回7月14日の会議は出張と重なり失礼させていただきましたので、5月27日以来の出席をさせていただいております。ご無沙汰しております。

この間も、皆様には常日頃から社会教育の実践者として、色々な活動でご活躍いただいておりますことに敬意と感謝を申し上げますとともに、社会教育事業の推進をはじめとして、町政の様々な分野でお力添えをいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

先ほど委員長の方からお話がありましたが、先月来このオホーツク地域を含めて、北海道では新型コロナウイルス感染症の感染者数が非常に高止まりをしており、町内の小中学校でも累次にわたる学級閉鎖

を行ったところではありますが、重症化に至った事案もなく、感染予防の取組を徹底しながら教育活動を行っている状況でございます。

本日の会議では、全道、管内での各種研修への出席報告、さらには来年度事業についての協議といった次につながる内容を用意させていただきました。

どうぞお互いご忌憚のない意見を交わしながら、活発な会議となりますことをご期待申し上げまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(牛島委員長)

教育長ありがとうございます。

3 報告事項

(1) 学習会研修会出席報告について

(牛島委員長)

それでは議事に入ります。

報告事項1、各種研修出席報告としまして、今回は3つございます。なお、質疑は3つの報告全てで終了した後一括してお受けしたと思いますので、よろしくお願いいたします。

1つ目、令和4年度オホーツク管内社会教育委員連絡協議会北見斜網地区社会教育委員等研修会につきまして、事務局含めて5名が出席いたしました。出席された委員の中から、酒井委員より報告をお願いしたいと思います。

(酒井委員)

美幌高校の酒井でございます。資料1ページになります。10月2日、清里町生涯学習総合センターで開催されました令和4年度北見斜網地区社会教育委員等研修会に出席して参りました。美幌町からは先ほど委員長からあった通り、牛島委員長、空師副委員長、池田校長先生、野村主査、私の5名が参加いたしました。全参加者数

は52名ということになっておりました。

まず、開会式で清里町社会教育委員長からの挨拶がありましたが、非常に熱意のこもったあいさつでございました。

今回は地元から講師を迎え、地元をどのように活性化させようとしてきたのか。また、それを地域の未来へどのようにつなげるかということテーマにして企画したことでした。少子高齢化、新型コロナ、ウクライナ情勢等で非常に厳しい中で、子どもたちが地域の未来を創っていくためには、地域の課題を自分で克服する、そのことで幸せを感じ取ることができるのではないかと。それには、地域が頑張ることが大切であるというふうに話されておりました。挨拶にあったとおり、本研修会は地域の人々がどのように頑張ってきたのか。どのように人づくりをし、どのように地域のつながりをつくってきたのか。そして、それらをどのようにして、地域の未来を作っていくのか、そのように一貫した研修会になったというふうに感じました。

報告したいことは非常に多くあるのですが、ポイントを1つに絞って報告したいなというふうに思っております。私が感じたのは町に住んでいる人が、どうしたいかを考えないと、町は変わらない。そのような言葉が心に刺さりました。そのキーワードをもとにご報告させていただきたいと思いますが、パネルディスカッションは、資料にあるとおり、ドット道東の中西さん、弟子屈町の地域おこし協力隊の川上さん、清里の青年花火大会実行委員長の畠山さん、地域食堂実行委員代表の石井さんの4名がパネルディスカッションを行いました。

90分ということでしたが、それでは足りない位、非常に盛り上がったパネルディスカッションでした。ドット道東の中西代表理事、中西さんは北見生まれで、就職で防衛省と東京に出たのですが、道東を出たことで、道東の良さに気づいたということでした。道東に住んでいる人は、道東の良さを知らないといひますか、気づかないということに気

づいたということなんです。

自分が外に出ることによって、それで自分は「道東では自分の理想を実現しにくい」と、「道東だから」というふうに決めつけていたんですが、「道東でなければできないことがある」というふうに語っておりました。それでビジョンブックというものを作成し、道東で実現したいことを千人から集めているということで、本の中でつながることが出来たというふうにおっしゃっていました。

続きまして川上さんは風土(ふうど)コーディネーターと聞き慣れない言葉ですが、風土コーディネーターだと。地域に根差し、地域を俯瞰し、地域の良さをマッチングさせ、地域の潤滑油になることを目指していくということだそうです。地域に住んでいる人は、先ほどと似ているところがあるけど、地域の魅力は地域に住んでる人は地域を知らないというような言葉が印象的でした。

風土コーディネーターの風土は、「風」とはこの地域に来て、違う地域に風のように移り住んだ人。「土」とはこの地域に住んでいる人、川上さんは風の人と土の人をつないでいるというお話でした。

畠山さんは20代の冬の花火の実行委員。冬の非常に寒い時に花火をするということで、冬は空気が澄んでいて、綺麗ということでした。

若者の感性で清里の魅力を町外に発信し、冬の花火を演出し、YouTubeの4Kライブというのを配信して世界中誰でも清里の花火を見ることができるようにしたというのがまさに若者の感性だなと感じました。清里の魅力を発信したいという熱意を持った持ち主でございます。

4人目の石井さんは町外から移り住んだいわゆる風の人でございます。山村留学をきっかけに清里が好きになり移住したそうです。清里をもっとよくしたいと思い、公民館サロンのように語り合える場をつくりたいと思い、地域食堂というものを企画し11回ほど開店したそうです。

声をかけて食堂運営しようということで、

運営していますが、面白いことに作り手は移住者で、お客が地元の人だそうです。風の人が地域と、なかなかつながりにくい環境であるというようなお話をされていました。まさに地域食堂は地域がつながる場として頑張っているというお話でした。町に住んでいる人が町をどうしたいのかということを考えないと町は変わらない。これを私の中でのキーワードにしましたけど、何かやるにしてもキーになるキーパーソンは2人目のダンサーという表現をして、セカンドダンスと言うんですかね。同調してくれるもうひとりの存在が大事だと。仲間づくりと自分では受け取ったんですが、ひとりだけじゃなくて、仲間を作っていくことが大事だと感じました。私も風の人でございます。美幌の良さを伝えたいなというもののひとりでございます。そのようなことを考えながら聞いておりました。

午後からはグループワーク、地域の未来ということで地域の未来を考える時、自分はどうありたのか、今後20年以内にメッセージを見たときに自分を鼓舞するようなことを考えましようということで非常に面白いグループワークだと思いました。以上、簡単でございますが、報告させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

(牛島委員長)

ありがとうございました。次に令和4年度北海道社会教育研究大会兼全国社会教育委員連合北海道ブロック大会留萌大会。オンライン大会でしたが、事務局より報告をお願いします。

(野村主査)

それでは、資料の6ページ以降をご覧くださいと思いますが、Zoomを使ってオンラインで開催されました第61回北海道社会教育研究大会留萌大会の内容につきまして、簡単に報告をさせていただきます。

函館での研修が2年ほど、中止と延期がありまして、今回は順を送って留萌管内での開催となりましたが、新型コロナウイルス

感染拡大防止の観点から、今年度初めてオンラインでの研修が試みられまして、道内各地から400名近い事前申込があったようですが、当日は特別講演と基調講演、そして4つの分科会に分かれて意見交換が行われましたけれども、今回は特別講演の内容を中心に報告申し上げたいと思います。

資料がちょっと飛びまして10ページからになります。当日のスライドを今回みなさんご覧いただきと思って配布しておりますが、特別講演では広島県南西部に位置する大竹市の玖波という地域の公民館で勤務されている河内ひとみさんという方がコロナ禍の中で学びを止めないという実践と地域住民の意識の変化、変容といいますか、意識が変わっていくという実践を中心にお話をされまして、その具体的な内容については10ページ以降をご覧いただきたいと思います。

広島県大竹市は人口が約26,000人で、本町よりもやや人口規模が大きいですが、その中にある福間地区という4,000人ほどが暮らしている地域です。公民館をイメージチェンジするというテーマのもと、住民の参加企画による学びのカフェという事業を月に一度実施していて、その継続の成果として公民館の利用者が増え、そして住民が笑顔になり、玖波地区の未来を主体的に考える人材が育っていったこと、その活動が認められ、2015年に文部科学省の優良公民館表彰で最優秀館に輝き、現在も活動が継続されていることを話していただきました。

同じ行政職員、専門職員、同じ立場の人間として、当日の講演を聞いて耳の痛い部分がたくさんあり、それと同時に理想と現実のギャップみたいなものを強く感じながら聞いておりました。この地域のすごいところは、中学生から、子育て中のお母さん、そして青年たちや高齢の方に至るまで幅広い世代の人たちが自分たちの町をこういうふうにしたいということで主体的に行動し

ていて、それを公民館を核に実現させるということ。そういう成功体験をどんどん積み重ねる公民館で、社会教育が目指す姿、その社会教育本来の在り方みたいなものを本当に再認識させていただく貴重な機会となつてすごく感銘を受けました。と同時に自分もまだまだだなということを改めて感じました。

1時間の講演を聞いて、講師の先生に聞きたいことが山のように出来まして、主催者を経由してメールで質問をしまくったのですが、質問に大変ご丁寧に回答いただきました。資料を少し戻るのですが、7ページから8ページにかけて主催者経由で講師の先生に質問を行って回答いただいています。

後ほど詳しくご一読いただきたいと思います。一番驚いたのはその公民館で自主事業を行う時の予算は8万円位しかなかったことです。今は3倍位に増やしていただいたということで、この点は予算の仕組みが異なるので一概には比較できませんが、美幌はすごく恵まれているなということを改めて思いました。

それと、ひとりでは乗り越えられないことがあるので、ある程度周りに頼ることが必要だし、講師の河内ひとみさんの後を引き継ぐ方はまだ存在していないけど、主体的に行動する住民の中から次の人材が表れてくれたらいいな。その人材を今まさに育てているというご回答をいただいたのがすごく印象的でした。先を見据えた戦略とか計画性を持って活動されていて、このしたたかさみたいなものを持つことがこれから考えるうえでも重要になるのではということを感じています。

この他印象に残ったこととして、我々が事業を実施する際に、準備9割ということが良く言われていますが、この方曰く、準備4割、残りの6割は本番で作るというふうに語っていて、個人的にはこの言葉が一番刺さりました。その理由は9割準備すると、住民の方の意見や発想を取り入れる余地がなくな

るからととてもシンプルなもので、これは主催する側からするとかなり覚悟が必要なことだと思いますが、その公民館と住民との信頼関係があればこそなせる業だと思います。決して行政が手を抜くとか、楽をしようということではないんですが、美幌もそういった様々な団体との信頼関係の中で、お任せできることや、その団体の皆様の発想を取り入れていくということを色々な所で言っていますが、ちゃんとそれをやれていますか？ということに改めて問われてるような気がいたしました。

特別講演の内容については以上ですが、お昼からは分科会があり、4つの分科会に分かれて一応議論を行ったのですが、Zoomでの意見交換ということで深いところまで議論が掘り下げられなかったのですが、各自治体が新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ、創意工夫をしながら様々な実践をされていることを情報共有できたことは大変良かったと思います。簡単ですが、全道研修の報告は以上とさせていただきます。

(牛島委員長)

次に令和4年度オホーツク管内社会教育振興セミナーの報告につきまして、事務局よりお願いします。

(野村主査)

引き続きとなります。資料の22ページとなりますがよろしいでしょうか。10月16日に小清水町で開催されましたオホーツク管内社会教育振興セミナーに出席してまいりましたので、その内容につきまして、ご報告を申し上げます。

基調講演ではバードウォッチングを通じて地域を知ると題して、日本野鳥の会オホーツク支部の川崎康弘さんが講演をされまして、バードウォッチングと社会教育ということで、一見どんな結びつきがあるのかなと思ひ、興味津々でお話をお聞きました。

このバードウォッチングをするという部分においては、オホーツクの自然環境が世

界的に見てもすごくレベルが高くて、バードウォッチングをしたいがためにオホーツクに移住してくる人がいるほどすごいものを持っているということを語られて、一気に皆さんがその話を聞いてぐっと引きつけられたような感じになりました。そして、そういう環境に私たちが生活していることや、その魅力に気づいているか、そして生かしているかという問題提起からお話から始まりました。

オホーツク海は日本で最も資源的に豊かで多様な生物が生息する環境ということ、結構シンプルですが海とか山は区別して考えられがちですが、つながっていないように海と山はつながっているとか、全てのはつながっているというシンプルで分かっているようだけど、結構見落とされがちなお話をさせていただいておりました。

普段私たちが眺めている何気ない風景をよく見ると色々な疑問があって、それを解決するための学びや、その教材が身近にたくさんあることが、子どもたちの学習の中でも例えば鳥を取り入れ題材にして、その鳥が飛来する季節とか、飛来する理由とか、飛来する規模とか、そういった調べ学習をするにもってこいで、調べる力やそれを伝える力を身に付けることができるという教材がオホーツクにはたくさんあるので、これを生かさない手はないということをお熱く語られておりました。

バードウォッチングの良さは、いつでも誰でもどこでも始められるのが魅力ということで、高齢男性が趣味にしているイメージが多いですが、女子会なんかが結構やっているということで、大変興味深い内容でした。

事例紹介では23ページに小清水自然と語る会の張込さんという方が小清水町の人工林を守ってるということで、野鳥を含む動植物に住みよい環境を守るために、いわゆるナショナルトラスト運動と言って、住民から寄付金を募ってその人工林を所有者になっていただいて、自然環境を守るという

運動、全国的にやっているところがあり結構広がりを見せているのですが、そのナショナルトラスト運動によって人工林を守り、自然をキーワードに多くの人々とのつながりを作っていくという活動が紹介されました。

酒井委員からの報告を含めて総括的なお話になりますが、いずれの研修でも共通していたのは、今まさに、例えば美幌であれば美幌に住んでいて住民の方が、その町に住んでいて幸せと感じられるか否かがこれからの社会教育を考えるうえですごく重要になるのではないかと改めて感じました。そのためには今、地元に住んでいる人たちが自分たちの町の良さや魅力を改めて再確認をすることが必要なことではないかというふうに、3つの研修会に出席して思いましたし、北見斜網地区で川上さんが「町は、その町に住む人がこれで良いと思った町にしかならない」という言葉があり、この言葉に本当に尽きるなと思いました。

これから、それぞれの自治体をどうしていきたいかということを主体的に考えていくことができる人たちをたくさん育てていくために、地元の人や外から移住してきた人たちの力をマッチングさせて、人と人という関係レベルは1+1なんですけど、1+1を4にも5にもできる。可能性があるということで、異種交流による相乗効果や化学反応が起きるような新たな発想を持ちながら進めていくことが大事なのではないかと3つの研修に共通していたことかなと思います。

その意味では美幌で作った第8次の中期計画の推進目標の3つはこれからの流れを考えても間違いじゃないということを再確認して、ちょっとだけ自信を持って胸を張って研修を終えられたなど考えています。以上、簡単ですが振興セミナーの報告とさせていただきます。

(牛島委員長)

ありがとうございました。それでは報告3本ありますが、どこからでも結構ですので気になったことや報告を聞いての感想など

ありましたらお願いいたします。

(宮崎委員)

3件の研修報告ありがとうございました。2番目の公民館の件ですが、公民館の概念がよくわからないのですが美幌だと公民館はどこに当たるのでしょうか。

(野村主査)

美幌は歴史的に公民館という施設は存在せず、公民館類似施設ということで位置づいているのはマナビティーセンターになります。近隣では津別や訓子府や置戸に公民館があり、公民館を中心に事業を行っていますが、美幌に関してはその時々の流れの中で公民館の建設には至らなかったということ。類似施設ということでマナビティーセンターであったり、その前身はコミュニティーセンターに社会教育が入っていることもあり、そういった施設を一応公民館類似施設ということで位置づけて運営しています。

(宮崎委員)

公民館の設置に何か決まりはあるんでしょうか。

(野村主査)

設置に制限はなく、例えば置戸であれば本館、秋田、境野、勝山と4つあり、その自治体によって設置する数は様々です。

(牛島委員長)

これは町の考え方なんですか。

(野村主査)

そうですね。

(牛島委員長)

公民館だ度公民館の運営委員さんもきちんといて、そういう人たちの色々な思いを、置戸なんかはよく報告されますが、それぞれの公民館が力を入れて、地域づくりは人づくり、人づくりは地域づくりということを掲

げてやったという話は随分聞かせていただき、素晴らしい実践だなと思いました。美幌には公民館というものがなかったので、社会教育の代替施設、それを運営するのは職員さんだけど、いわゆる町民である運営委員にこのような人がいて、意見を出して一緒につくり上げるみたいなことがない。それぞれの考え方、歴史があると思うんだけど。その部分については私も風の人なので何とも言えませんが。ありがとうございます。

他にございませんか。

それでは研修報告いただきありがとうございます。機会があればまた報告をしたいと思えます。以上で報告事項について終了いたします。

4 協議事項

(1) 令和5年度社会教育関係各課事業計画案について

(牛島委員長)

次に協議事項に入ります。協議事項(1) 令和5年度社会教育関係各課事業計画案についてを議題とします。事業計画案について、事務局から説明願います。なお、質疑等は各課からの説明が全て終了した後、一括して受けますのでよろしく願いいたします。それでは社会教育課から順次説明をお願いいたします。

(立花課長)

お手元の資料24ページに、それぞれの課の事務計画がございます。社会教育課につきましては24ページと25ページに記載させていただいております。

令和3年度についてはご承知のとおり、新型コロナウイルス対策の関係で数多くの事業が中止というような判断に至った年でございます。

今年度につきましては、一応例年どおりの事業を予定して進めておりましたが、やはり新型コロナウイルスの関係で波がありまして、一部の事業については中止として

おりますけど、感染対策をきちんとしながら令和3年度よりはより多くの事業を実施できている状況かなと感じております。

令和5年度につきましても継続して、感染防止対策を取りながら可能な限り事業を実施してまいりたいというふうに考えております。

それでは資料の中で特に変更となる点を中心にご説明します。24ページの中段、取消線をしているボランティアリーダー養成研修の派遣について、14の管内で3か年に1回開催されるもので、昨年はネパール北見で予定しておりましたが、来年度はオホーツク管内の実施がないということで削除しております。

その7行下の色付きで札幌大学地域連携事業について、昨年度策定した第8期社会教育中期計画において推進目標でいくと2のふるさとの魅力を受信、発信の項目で新たに新規事業ということで取り組むものです。中身については、美幌出身で元札幌大学の学長をされておりました山口昌男さん。この方は2013年に他界されていますが、文化人類学の研究の中で様々な書籍や物件を集められています。それを活用してまだ具体的な中身については協議をこれから行うこととなりますが、博物館、図書館とそういった協議をしながら例えば、博物館での展示、図書館ではすでに所蔵している書籍を活用して改めて山口先生の人となりを紹介する。あるいは、難しい学問ですが、その功績について広く知ってもらうような取組ができるのではないかと来年度に向けて進めていきたいと考えております。

その4行下、二十歳の集いにつきましては事業計画時点では成人の集いという名称で進めてましたが、ご承知のとおり成人の定義が変わりましたので、来年の1月8日に実施する今年度の集いから二十歳の集いに名称を変更するものです。

青年活動団体に対する支援ですが、Fjoyのお化け屋敷の後ろに新規ということで

具体的な内容は決まっていますが、8月に大変人気のあるお化け屋敷をマナビティセンターを全館貸切で行っていますが、その一大イベントに続くものを新規で行いたいとのことで、具体的内容について今後詰めていくこととなります。より子どもたちに楽しんでいただけるイベントをもう1本ということでお聞きしております。それについても継続的に支援したいと考えています。

25ページの13行目、芸術文化鑑賞事業、「びほーるオープン10周年記念」ということで、本当は今年が10周年ですが、先延ばしで来年行うということで今も進めております。その中で札幌交響楽団のコンサートを予定しておりその調整を行っている最中です。

文化団体招聘鑑賞事業ですが、劇団四季のこころの劇場について今年度、無料配信という形で執り行っています。この事業については隔年実施ですので、令和5年度はなく、次回は令和6年度となります。

また、中学校での公演を実施していましたが、学校の中に他所から人が入ることが今の状況では難しいため、こちらについても見合わせを考えています。

びほーるの記念行事と合わせてびほーる避難訓練コンサートということで、お客様もいるコンサート中に実際に避難をするということをやってみたいということで計画しているところです。私からは以上となります。

(牛島委員長)

ありがとうございます。それではスポーツ振興課所管事項についてお願いいたします。

(浅野課長)

26ページ、27ページ、スポーツ振興課事業案ということであくまで予定ですが、他のスポーツ推進会議、予算等に変更がありましたらご了承いただきたいと思います。

上の方から5つ目のB&Gの事業派遣ということで、例年スポーツ交流交歓会、コロナの関係で中止となっていた部分もありま

すが、今年は東川町で開催され、来年度は海洋センターを回りながら来年本町が当番で、開催する予定になっております。

B&G海洋レク体験会ということでSUPという知ってる方もいらっしゃると思いますが、サーフボードみたいなものに乗るものでかなり流行しているものなのですが、そのSUPをB&Gから買って体験会を行おうと思っております。屈斜路湖をステージに実施したのですが、大変人気があり来年度SUPを購入しまして体験会を実施したいと新規事業で考えております。

中ほどにビホロ100kmデュアスロン大会、来年町制100年の冠大会ということで工夫しながら実施したいと思っております。

その下にSOMPO ボールゲームフェスタということで、内容についてボールゲームを中心に4種目実施できる中に、元オリンピック選手やトップアスリートの講師が来ていただける助成を受けて実施できるものですが、現在申請中で該当になれば実施していきたいということで計画しています。

下から3つ目の管理棟トレーニングセンターの耐震改修ということで、耐震診断を受けてからちょっと時間が経過していましたが、令和6年度に改修工事の着手を目指して来年度設計業務を委託していくということで予定しております。

一番下の美幌町スポーツ推進計画策定ということで、先だって11月7日に第1回目の策定委員会を開催いたしまして、今後部会協議をしながら、来年度末の完成を目指して独自のスポーツ推進計画を作成していきたいと考えております。

次ページのハード的なことですが、野球場のLED照明化、屋外施設色々LED化していかなければならないのですが、野球場を先駆けて実施していきたい。先ほど言いましたがB&GのSUPも5艇購入し予算を計上していきたいと思っております。以上ご説明いたしましたので、よろしくお願いたします。

(牛島委員長)

ありがとうございました。続きまして博物館所管事項についてよろしくお願ひいたします。

(鬼丸課長)

28ページ、博物館について令和5年度の事業案のポイントについてご説明したいと思います。一番上の黒丸印の常設展ですが、令和5年度は第1展示室の展示更新を行います。特に歴史や文化を学べる展示コーナーの充実を図って、併せて実物の資料展示や映像展示を充実させて特に学校授業で利用しやすいような形態にする予定です。

その下の黒丸印、特別展、企画展、移動展、ロビー展ですけれども、新規と書いてあります1つ目、「フィルムが伝える昭和の記憶(仮称)」ですけれども、この特別展を開催する予定です。特に令和5年度は美幌町の町制施行100周年ということもあって、約100年前から始まりました昭和時代の美幌町内外の風俗であったり、自然などにつきまして残された映像記録を中心にご紹介する予定です。

その下の新規で2つ目の山口昌男展(過少)を開催する予定です。先ほど社会教育課から説明があったかと思いますが、文化人類学者で札幌大学の学長を務められました山口昌男さんの貴重な資料が豊富にあって、その一部を美幌町にお渡ししたいという話がありましたので少し内容を詰めて、魅力的な展示を考えられればと準備を進めております。

下の方の黒丸、講座、教室、イベントでは通年で開催しています博物館講座、プチ工房といった体験型の講座教室、子どもの日の記念イベントをはじめとする各種イベントについて内容を深めながら進めていく予定です。

その下の黒丸、講師依頼ですが、特に学校教育と連携した体験授業で今年度同様に先生方と連携しながら、学芸員が持っている自然、歴史、美術などの専門性を生

かして学校授業の支援を進めていきたいと思っております。

それから下のほうの黒丸、文化財保護事業は今年度に引き続き、町の指定文化財を受けています美幌小学校の柏の木を保全していくために、令和5年度については柏の木の成長に支障を及ぼしている人工物の移設を行って、その環境整備を進めていく予定です。その他、町内に歴史的に重要な史跡がたくさんありますので、その案内板の整備などを進めていく予定です。以上簡単ではありますがご説明をさせていただきましたので、よろしくお願ひいたします。

(牛島委員長)

続きまして、図書館所管事項事業についてお願ひいたします。

(竹花館長)

はじめに美幌町図書館は今年70周年を迎えまして、記念する事業をいくつか行ってきました。モモンガと本が合体した公式キャラクター「トモビー」を誕生させ、9月25日に行われました図書館フェスティバルの中で古本市と、そしてささやかですが70周年を記念する式典を行い、その中でトモビーの表彰も行いました。多くの町民の皆さん、そして社会教育委員の皆様にも参加いただきました成功裏に終えられました。本当にありがとうございました。70周年記念の一番の事業が、3月11日実施予定の北海道出身の直木賞作家、桜木紫乃さんの講演になります。かなり早い時期から交渉が進んでいたんですが、桜木さん大変忙しい方で講演、TVでも出ていましたが書店の店長さん、それから本業の作家業など非常に忙しく、ようやく最近になって打ち合わせができました。何とか12月中には詳しいご案内を差し上げたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

令和5年度の事業計画ですが、そこに記載のとおり新規事業はひとつもありません。実は70周年記念の事業を行っているうち

に、私を含めて職員が本当に町民にとって、美幌町にとって、魅力的な図書館とは何だろうということを改めて考えるようになりました。もう一度今までの事業を見直して、図書館運営計画を根本的に見直して作り直そうということになりまして、今それを進めている最中です。3月までに新しい計画を立てて来年度実施して、その中で必要なもの、あるいは不要なものをさらに精選して新しい図書館運営計画を作っていきたい。

例えば今、公共施設の運営でユニバーサルデザインということが大事になってきてますが、うちの図書館は一切考えてこなかったんですね。掲示の仕方とか、机や椅子の配置の仕方とか、今ある部分でできることは何かということで、そういうことも含めて新しい図書館を目指して自分たちも変わっていききたい。初めて取り組むことになりますので、項目は同じですが中身を変えて、令和5年度の事業を進めていききたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(牛島委員長)

ありがとうございました。図書館開館 70 周年ということで素晴らしい歴史だと思えます。ただいま各課から説明がありました。皆様方からご質問がありましたら、特に気になった点、もう少し聞いてみたい点がありましたらお願いいたします。

(下山委員)

質問とかじゃないんですが、先ほど図書館の事業計画の中でユニバーサルデザインのところでお話があったのですが、ハードの部分じゃなくて、すごく小さいことでも、障がいを持った方には助かるなと思うところがあるので、前に別の図書館で薄い定規みたいなのなのですが、1行分だけ空白とか穴が開いていて、その穴に文章を合わせるとその一行分だけが読めるというのがあって、それだけでも読みやすかったり、そんな簡単なことでもすごくありがたったりするので、よかったら是非お願いしたいと思います。

(牛島委員長)

他いかがでしょうか。

(宮崎委員)

社会教育のFjoyのお化け屋敷についてですが、いつも行きたいと思うのですが、1日しか開催がないので、あれだけご尽力いただいて1日だけというのは色々理由があるですか。

(野村主査)

マナビティーセンター全館貸切という部分で1日に全精力を注いでいる現状のため、1日が精一杯というところがあるんですが去年の反省、そして今年も実施して少しずつ良い意味で手を抜いて改良をしていきたいと思っております。参加された方の事後アンケートや意見を聞かせていただいて、このようなイベントを1日だけで終わらせるとはもったいないという意見も実際にいただいております。つながりのある方から、大変であれば手伝いたいという申し出てる方もいらっしゃる、そういったありがたいお話もあります。

今年も大変人気で、10分で定員が埋まるくらい大人気でした。なので、そういったお声や反応は大変ありがたいですが、身体面、準備にかかるエネルギーといったところの見極めをしながら来年度に向けていきたい。美幌の活力共創事業の採択をもし来年受ければ3年期限のちょうど3年目ということになります。4年目以降も続いていくようにということを含めて、1日だけでは足りないという声もくみながら、どこまでできるかをこちらでも知恵を絞りながら支援に当たっていききたいと思えます。

(宮崎委員)

ありがとうございました。まだ行ったことがないので、1回は行ってみたいと思っております。

(牛島委員長)

準備90%の話がありましたが、ぜひ手を抜くというのではなく40%で。せっかく手伝ってもいいよという人がいるのであれば、そういう人たちを取り込むことによって、その事業が長く継続し、さらにアイデアが入ってもっと盛り上がりとか中身が濃いものになる。その人たちがまた逆に運営に関わっていくような形になれば、人を育つようなことにもつながると思うので、ぜひその辺を検討いただいて、バランス良く。宮崎委員もぜひ視察したいとおっしゃっているので。

(野村社会教育グループ主査)

お化け屋敷を来年の事業視察の候補の1つに入れてしまうといいかも。それで体験してもらおう。視察といっても5分程度で終わるので、評価しにくいかもしれませんが。来年事業視察の際に考えます。

(牛島委員長)

他いかがでしょうか。

(伊藤委員)

博物館の関係で、町の文化財というのは、レンガのものでもよいのか確認したい。私が上美幌に来て60年以上経つんだけど、その前にすでに建っていたレンガの煙突があるんですよ。観光客が立ち止まって写真撮ったり、聞かれたりするが、詳しいことがよく分からないのでちょっと調べてみてほしい。前に博物館で美幌の町を探索した時に、調べてほしいとちらっと言ってみたんだけど、あそこは観光客が煙突を見るために道路で止まっている時に聞かれるが、確か天ぷら工場があった時の煙突じゃないかな、くらいしか説明できない。赤レンガの製材工場というくらい名前を付ける人がいて津別関係だとかいう話もある。赤レンガ意外と目立ってるんですよ。だから詳しいこと調べてもらいたいな、と。100年以上経っているのではないかと思っている。

(鬼丸博物館課長)

わかりました。1回調べてみます。

(牛島委員長)

お宝とかが出てくるかもしれない。

(伊藤委員)

お宝は多分出てこない。いつ崩れるかわからない煙突だから。

(牛島委員長)

でも通ったら気になるよね。

(伊藤委員)

自分たちでは気づかないけど、観光客だとか他の町の人に「赤いレンガの何とか」と勝手にあだ名をつけられ目印にされている。うちの工場の敷地内であって、工場は売却したけど、あの煙突聞かれても詳しく説明ができなかった。

(牛島委員長)

隠れた文化財かもしれない。ありがとうございます。

他いかがでしょうか。ありませんか。

以上で協議事項、令和5年度社会教育各課事業計画について終了します。

(2) 令和4年度美幌町社会教育委員の研究調査について

(牛島委員長)

次に協議事項2、令和4年度美幌町社会教育委員の研究調査についてお願いします。事務局より説明お願いいたします。

(野村主査)

研究調査ということでお話をさせていただきたいと思います。先にお送りしておりますが、今年度は多様性をテーマにいわゆるコミュニケーションのトレーニングということでチラシをお配りしました。12月10日、13時30分から16時30分まで、町民会館のこの3階の中ホールで研修会を開催いたします。

今回どのように行おうかと思い、山本主査

と立花課長とも相談し、やはり多様性ということで7月の会議でも色々議論がありました。自分が多様性にどのように向き合っていくのかということで、様々な人の違いだとか、そういった違いを受け入れて、それを分かち合っていくことを楽しく体験、学習できないかということで、今回国際協力機構、JICAというところから職員を派遣いただき、JICAの職員のみなさんのご指導によるちょっとコミュニケーション上達講座というタイトルで研修会を開催します。

詳しくは当日までのお楽しみですが、グループワーク中心に行い、トランプのページワンというゲームをベースにして色々なルール設定を行うようなコミュニケーションの実習を行う予定です。この研修会では社会教育委員の皆様だけではなく、それぞれ各課の委員さん、学校運営協議会とも連携し、ひとりでも多くの方に参加いただこうと思って企画しておりますのでぜひご参加いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

今日お配りした網掛けの資料は研究調査資料ということで、前回の会議でグループワークをした内容を山本主査がまとめ、今回お配りさせていただいております。それぞれ、多様性というものがどういったものなのか、身近になっていなかったり、日本は多様性とは逆の向きしていて今でも一律、平等という枠の中に無理矢理押し込めていたりする、という意見がそれぞれのグループから出ていました。

一番下の米印にも書いていますが、これまでも意見が出ていたり、やはり見えにくい人、参加しない人、参加できない人へのアプローチをどうするのかということがやはり永遠の課題でもあり、社会や世間を考えるうえで、とても重要ではないかと思っております。社会に出るための安全と挑戦を創出するということが、社会教育の役割ではないかというような意見が出ておりました。

では、どこまでが行政として許容範囲なのか、そして社会教育委員として何ができ

るのかみたいなことについて、今後みなさんとまた考えていければというふうに考えております。今日あまり行くと、その先入観を持って12月の研修会に臨まれてもと思えますので、今日はこの3回目の会議のまとめをみなさんにご覧いただくというところにとどめさせていただきたいと思っております。12月の研修会の後、1月に社会教育委員の会議を行いますが、この研究調査を中心に上げて改めてみなさんでグループワークをしていきたいと思っております。12月10日の研修会をひとつの足がかりとさせていただき、この内容を踏まえて1月にみなさんで議論をまた深めていきたいと考えております。

このまとめを山本主査からいただいた後も、ずっと調べたのですが、調べれば調べるほど難しいなということを改めて感じております。自分の価値観では納得できないことがあるということをごまかして受け入れるのか、多様性を考えるキーワードになってくるのではないかと思っております。

(牛島委員長)

説明がありましたが、ご質問等ございましたでしょうか。

(野村主査)

コミュニケーションの違いを分かち合うとか、理解するというのは、日本人、外国人だけじゃなくて、同じ日本人の中でも起こりうることだと思います。そういった違いを今まできつと乗り越えてきていますが、より複雑になっていくと思います。そういった部分をぜひみなさんと楽しく勉強できればと思っております。

(牛島委員長)

それでは12月10日土曜日、お忙しいでしょうけれども、ご参加いただくようよろしくお願いいたします。

以上で協議事項2、令和4年度美幌町社会教育研究調査について終了いたします。

5 その他

(牛島委員長)

次にその他に入ります。

はじめに、各課課長館長からの連絡事項につきましてはお手元に配布されました資料に代えさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。次に次回会議の日程等について事務局より説明をお願いします。

(立花課長)

本日はお忙しい中、お足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。次回お集まりいただきますのは、先ほど話題になりました12月10日の研修会にぜひ参加いただきまして、次回の会議については1月25日水曜日の午後6時半から今回と同じ中ホールで予定しております。その会議の時にまだ決定ではありませんが、教育委員の方も参加する予定です。議題につきましては、今日お話がありました事業視察の関係と協議事項の研究調査についてとなりますので、大変な中身となりますが、ぜひ先ほど申しましたみなさんと楽しく学びながらそういったことを深めていただければと思っております。

(牛島委員長)

ありがとうございます。次回の会議について、1月25日水曜日よろしく願います。12月10日についても1時半となっておりますので合わせてよろしく願います。他にございませんか。

(茂手木委員)

この会議の際に、飲み物を飲むというのはどうなのでしょう。すぐに咳とかが出てしまい、その際に飲料水があればと思うのですがどうなのでしょう。

(立花課長)

こちらで準備するのは難しいと思いますが、自分で持ち込んだものを飲むことは構いません。

(野村主査)

今日の中ホール、ちょっと違和感があつて、こちらにセットがあります。今日の日曜日、11月27日に空師副委員長が会長をされております自治会連合会女性部会が今年発足50年の大きな節目を迎えることになりまして、その記念事業として例年実施している女性の集いで講談師の神田山陽さんをお招きすることになっております。

この高座、まだ未完成の状態をご覧いただいておりますが、大空町から神田山陽さんが来てお話、講談を聞かせてくださることになっています。当日どなたでも参加可能です。10時から入場無料でございますのでぜひお時間のある方は、足をお運びいただければと思います。空師副委員長に代わって言ってしまいました。

(空師副委員長)

みなさんぜひお越しいただき、講談を楽しんでください。よろしくお願い致します。

(牛島委員長)

私からもひとつお願いします。チラシを入れさせていただきましたが12月4日に美幌町吹奏楽フェスティバル、28回目なのですが、コロナで2年間中止でした。今年、できるということで準備を進めております。町内の6団体と津別町から中学校の吹奏楽部が来て7団体の演奏が一気に聞けるという会でございます。お時間がございましたら、足を運んでいただければと思います。

なお、育成会の会報もお手元にお届けさせて頂きまして、皆さんの話を聞きながら、考えたら育成会も30年経ったのだなと思っております。色々と子どもたちも頑張っておりますので、ご理解いただければと思っております。

本日の議題は以上となります。長時間に

わたりまして、ご審議いただきましてありがとうございました。以上をもちまして令和4年度第4回美幌町社会教育委員会議を終了いたします。

皆様大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

【閉 会】